

## 特集「岡山天体物理観測所」 巻頭言：伝統の継承と新時代への出帆



泉 浦 秀 行

〈自然科学研究機構 国立天文台 ハワイ観測所 岡山分室  
〒719-0232 岡山県浅口市鴨方町本庄 3037-5〉  
e-mail: hideyuki.izumiura@nao.ac.jp

岡山天体物理観測所は、最後まで推進してきた188 cm 反射望遠鏡の全国大学共同利用を平成29年末に終え、国立天文台のCプロジェクトとしての任務を完遂し、平成29年度末をもって解散しました。解散に至るまでの足取りについては、脚注の拙文<sup>\*1</sup>をご覧くださいと幸いです。

今を去ること60年以上前、萩原雄祐先生に先導され、藤田良雄先生をはじめ多くの方々を岡山天体物理観測所の実現に尽力されました。それが昭和35年10月19日の盛大な開所式へと結実しました。藤田先生のご著書「星とともに半世紀」には、開所までのさまざまな活動が興味深くつづられています。当時の人々が叡智を絞って成し遂げた一大事業であったことが伝わってきます。

岡山天体物理観測所は、1962年には実質的な全国大学共同利用を開始し、1988年の東京大学東京天文台から文部省国立天文台への改組後は名実ともに全国大学共同利用に邁進し、2017年末でその終わりを迎えました。しかし、国立天文台による国内の光赤外線望遠鏡の全国大学共同利用がこれで消滅するわけではありません。今後は京都大学のせいめい望遠鏡における全国大学共同利用へと引き継がれます。そのために新設されたハワイ観測所岡山分室が、これまで培ってきた全国大学共同利用の伝統を受け継ぎ、その土台の上に、京都大学と協力して新たな時代を築いていきます。

さて、188 cm 望遠鏡の全国大学共同利用は最後まで快調でした。特に最後の5年間は、研究成果の創出量が過去最高に匹敵する勢いでした。また、2015年に国際天文学連合が主導したNameExoWorldsでは、188 cm 望遠鏡の成果が国立天文台を世界の天文ファンにアピールするのに大きく貢献しました。中学生の時分、漢文の授業で創業と守成（元々は草創と守文とのこと）という言葉を学びましたが、岡山天体物理観測所は守成を見事に成し遂げました。今後は、そう為らしめた全国大学共同利用に向き合う精神をせいめい望遠鏡へと受け継いでいく必要があります。

一方、188 cm 望遠鏡をはじめとする旧望遠鏡は新たな運用形態へ移行しました。解決しなければならぬ課題は山積していますが、それでも大学主導の運用という未知の荒海へそれぞれ出帆しました。188 cm 望遠鏡については、何とか間に合った自動高分散分光望遠鏡化が、荒波を乗り越えていく推力となってくれることでしょう。

岡山天体物理観測所が立地した竹林寺山は今、4 m級と2 m級の望遠鏡ドームがそびえ、小望遠鏡のドームが連なり、天文博物館が来訪者を迎えてくれる、特別な場所「岡山アストロコンプレックス」（仮称）へと変貌を遂げました。ぜひ新時代の竹林寺山を自分の目で確かめにきてください。そして、昔日の岡山天体物理観測所を、ほんの一時でも振り返っていただけたなら幸いです。

\*1 [https://www.nao.ac.jp/study/oa/special\\_report/izumiura.html](https://www.nao.ac.jp/study/oa/special_report/izumiura.html)